



大地から小さな学校のお便り

ブラジル第3アリアンサ富山県日本語学校便り NO17 12月号

12月は、昨年に比べ雨が多く、サンパウロを中心として大雨が続きました。洪水による被害もあちこちで発生しました。第3アリアンサでは、果物の集荷が例年より、はるかに悪く、村の人たちも困っていました。

今月は、日本語能力試験がありました。本番に強いブラジルの子どもたちですが、この能力試験も無事合格してくれればと思っています。

卒業式特集

今月は卒業式がありました。この卒業式は昨年初めて開かれました。それまでは「ナタールの集い(クリスマス会)」が開かれていましたが、その主催者が亡くなったために、昨年、「第3アリアンサ富山県日本語学校、学習発表会・卒業式」が行われるようになったのです。

今年は11年通った西田よしあきくんが卒業しました。その他、日本語学校生徒による発表では、お話発表、影絵劇、組み立て体操、写真劇、色々な発表が行われました。



ししまい



6歳の子どもは「ししまい」を発表しました。「むすんで、ひらいて」の曲に合わせて、「前、後ろ、右、左…」教師の掛け声に合わせて獅子舞を踊り、一人なのに堂々と発表することができました。とてもかわいらしく踊れたので、皆さんからたくさん拍手をもらいました。その他、簡単な自己紹介、ピアノ演奏による「チューリップ」も披露しました。

こわーいお化けのはなし



中学生は、簡単な組み立て体操で登場し、「こわーいお化けのはなし」をしました。こわーいお化けとは実は歴代の先生であったり、私であったりします。「この先生おこったら、こわーいらしいよ」「わーたすけてー」など、元気に発表してくれました。最後には大正琴、たて笛による「蛍の光」を演奏しました。

スーホの白い馬

影絵劇の話は何度もしましたね。幼稚園小学生の子どもたちは、スーホの白い馬を発表しました。やはり当日になると子どもたちは、すらすらと朗読をすることができるようになっていました。しかし、あまりに速すぎて「わからなかった」と言われてしまいました。今度は、ゆっくり話ができるようにしないとイケないですね。

この劇は大正琴による演奏もありました。「アメージンググレイス」です。大正琴の練習も大変でした。思うように音が出ないのです。しかし練習を繰り返しているうちに、とても上手になりました。



地球のはなし

高校生は、「地球のはなし」をしました。砂漠化、南極北極の氷が溶け出している話、自分たちには何ができるのか、難しい日本語を含んだ文章を暗記し、発表しました。今まで聞いたことのない言葉が多く、戸惑う場面も見られましたが、当日は立派に発表してくれました。



夜学生

今年は、非日系の夜学生による発表も行いました。題して「私の大事なだんな様」、自分のだんな自慢をしてもらいました。「私の夫は、頼もしいです」「これはかわいい鼻です」など、日本語の文型や形容詞に注目しながらの発表です。これも全部暗記して発表してもらいました。もちろん最後は「♪わたしのだいじなだんなさま」の歌で締めくくりました。「先生が試験だと言っていました」とセリフの中にもあったのですが、もちろん100点満点でした。



会話テスト



土曜日一人で勉強している中学生には、「会話テスト」をしました。「好きな食べ物はなんですか」「将来どこの国に行きたいですか」全部で20問のテストに挑戦しました。全部間違えずに日本語で答えることができました。舞台の上に立つことが苦手な子でしたが、堂々と発表することができました。お父さんもお母さんも満足げでした。

シンデレラ

今年の青年会による出し物は、「シンデレラ」でした。映画「タイタニック」のテーマ曲でオープニングが流れ、いよいよ、写真劇の始まりです。私がデザインしたキャラクターに変装し、青年たちは自分の思い思いのアドリブを加え、変わり果てた自分の姿に大笑い、自分のセリフに大笑いで村全体がとても温かい雰囲気になりました。近隣の日本語学校の先生たちからも好評で、何十時間とかけて作り上げた私の努力も報われた感じがしました。



お話発表



幼稚園、小学校の子どもたちは、「スーホの白い馬」の他、今年6月に行われたお話発表会と同じものを発表しました。「家族のはなし」「電話のはなし」をこの半年間ずっと覚えていました。この話には、会話文が中心となっているため、それを覚えればいつでも使えるような内容になっています。今後も忘れないでいてほしいものです。

涙のお別れ



今年の卒業式は、とても温かいものになりました。卒業生答辞では、沈黙が広がりました。一瞬、何が起きたのかと心配したのですが、感極まった卒業生が涙しながら、答辞を読み始めたのです。11年の思いがこもった素晴らしい答辞となりました。その涙に誘われ、多くの人が涙し、思わず私もうつすらと涙を浮かべてしまいました。

卒業生退場では、みんなで花道を作り拍手で見送りました。大粒の涙を流しながら、ゆっくり去っていく卒業生を見た時、一抹の寂しさを感じましたが、彼の未来に大きな希望があるようにと、これほど願ったことはありませんでした。

正直に言えば、この卒業式は、とても大変でした。深夜までの仕事が2カ月続き、なんでここまで仕事をしているのだろうと思いつつも、村の人たちの笑顔、卒業生の笑顔、日本語学校生徒の笑顔を思い浮かべては、一人孤独に仕事をしてきました。たった数分の彼の涙のおかげで、今までに体験したことがない充実感を私自身にもたらしてくれました。多くの人から「今年は本当に良かった」と言われた時は、私も涙が止まりませんでした。

「別れ」は、誰にでもやってくるものです。しかし年をとればとるほど、卒業生との別れ、お世話になった人たちの別れは、それなりに深い意味を持ち始めました。別れをしっかりと祝うことの重要性や、そのことにしっかりと意味を見出すことの重要性を、この卒業式で学んだように思います。

思いがけない彼の涙に、多くの人が感動し、忘れられない、特に私にはかけがえのない体験となりました。誰かが別れをしっかりと意識し、それをみんなで分かち合うことは、この仕事ならではのことであり、そのことを教えることができるのは、教師しかいないのだと思いました。

卒業おめでとうございます。そしてありがとう。

